

中山間地域の幸福度に関する調査 —山形県西川町を事例に—

菅野 稚絵¹・菊池 輝²・今西 肇³・後藤 忠勝⁴

¹学生会員 東北工業大学 工学研究科 土木工学専攻 (〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1)

E-mail:m174804@st.tohtech.ac.jp

²正会員 東北工業大学 工学部 都市マネジメント学科 教授

(〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1)

E-mail:akikuchi@tohtech.ac.jp

³フェロー会員 東北工業大学 都市マネジメント学科 名誉教授

(〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1)

E-mail:imanishi@tohtech.ac.jp

⁴非会員 山形県西川町役場

中山間地域である山形県西川町は、平成 25 年度第 6 次西川町総合計画において町の良さ、楽しさを確認するための取り組みとして「西川版幸福指標の創設」を掲げている。本研究では、西川町民を対象としたアンケート調査を実施し中山間地域の男女別年代別の幸福度について考察した。西川町は幸福度の判断として重視している項目が全国平均と異なり、特に男性・シルバー世代は収入よりも食への満足感や趣味の時間を、女性は家族との関係よりも食への満足感や人間関係の良好さを重視していることがわかった。また西川町では『食』、『健康』、『趣味』、『人間関係』の項目が幸福に大きく関与することがわかった。

Key Words: happiness, betwixt mountains, questionnaire survey,

1. はじめに

従来の日本のまちづくりは、量的にかつ均質的に整備されてきた。しかし、少子高齢化や地方の過疎化が進む現代においてのこれからのまちづくりは、その地域の個性を活かしたまちづくりが重要であると考えられる。山形県西川町は人口 5 千人ほどの町であり、高齢者比率は 2016 年で 40%、進学や就職で若者が町を離れてしまい、少子高齢化が進み 2040 年には総人口 3500 人ほどになると推測されている。町の総面積の 95%が山林であり、月山や寒河江ダムなど豊富な観光資源を有している町でもある。平成 25 年度第 6 次西川町総合計画において町の良さ、楽しさを確認するための取り組みとして「西川版幸福指標の創設」を掲げている。

そこで本研究では、西川町役場の協力を得て西川町民を対象としたアンケート調査を実施し、幸福であると感じる要因の 1 つである『いきいきとする気持ち』に着目し、中山間地域の男女年代別の幸福度について考察した。男性・シルバー世代は収入よりも食への満足感や趣味の時間を、女性は家族との関係よりも食への満足感や人間

関係の良好さを重視していることがわかった。

2. 調査方法

西川町で行われた、4 つの町民向けのイベントの来訪者 20 代から 90 代を対象に、無記名自記式調査用紙を配布し、262 件のサンプルを収集した。アンケート調査の回答項目を表-1 に示す。

表-2 はいきいきと感じるとき、いきいきと感じないときのアンケート項目を示す。

表-1 アンケート調査の回答項目

	項目	設問
個人属性	性別	選択
	年代	記入
	同居人の有無	選択
	同居人の種類	選択、その他(記入)
	住居	選択、その他(記入)
いきいき	職業	選択、その他(記入)
	いきいきと感じるとき	選択、その他(記入)
周囲との関係	いきいきと感じるとき感じない時	選択、その他(記入)
	人間関係	5段階評価
	経済状況	5段階評価
	仕事環境	5段階評価
	生活環境	5段階評価
満足度	満足度人生における満足度	グラフ記入

表-2 いきいきと感ずるとき、感じないときのアンケート項目

No.	色	キーワード	いきいきと感ずるとき	いきいきと感ずらないとき
①	青	食	美味しいものを食べた・お腹が満たされたとき	美味しくもないものを食べたとき・空腹時
②	赤	ストレス	よく眠れた・リラックスしているとき	寝不足・疲れがたまっているとき
③	黄	恋愛	恋・異性との交流	失恋したとき
④	緑	収入	収入を得る・経済的に余裕があるとき	経済的に余裕がないとき
⑤	紫	物欲	ものを買うとき・手に入れたとき	欲しいものが手に入らなかったとき
⑥	茶	健康	健康であると感ずるとき	健康が壊なわれたとき
⑦	黒	日常生活の変化	新たなことに挑戦するとき	毎日同じ事の繰り返し
⑧	白	運動	運動しているとき	体を動かさないとき
⑨	水色	趣味	趣味をしているとき	無趣味・趣味に時間を費やせないとき
⑩	灰色	個人の時間	一人の時間を過ごすとき	孤独な時間を過ごすとき
⑪	黄色	承認欲求	他者に認められたとき	他者に認めてもらえないとき
⑫	緑	人間関係	友人と会う・関係が良好なとき	友人関係がうまくいっていないとき
⑬	青	家族との関係	家族との交流	家族とうまくいっていないとき
⑭	赤	仕事	仕事をしているとき	仕事がうまくいっていないとき
⑮	その他	その他		

3. 調査結果

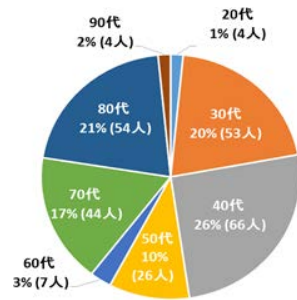


図-1 回答者の年代割合

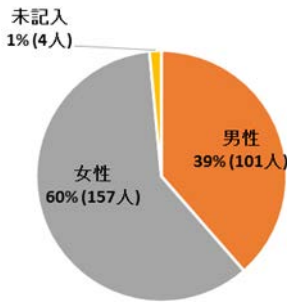


図-2 回答者の男女割合

図-1 にアンケートの回答者の年代割合を示す。20 代、60代、90代は 10 人未満と少ない結果となった。今回の分析では、回答者の世代を労働力の中核をなす 15 歳以上 65 歳未満の生産世代と、年金を生活の主な収入源としているシルバー世代の 2 つに分けた。

図-2 にアンケートの回答者の男女割合を示す。男性は約 4 割、女性は 6 割という結果となった。

図-3 は世代別のいきいきと感ずる項目の割合を示している。生産世代の中で割合が最も大きい項目として『健康』6 割弱が挙げられる。これは、生産世代の約 6 割が健康であると感ずるときにいきいきと感ずっていることとなる。次に大きい項目として順に『趣味』5 割弱、『収入』4 割強が挙げられる。シルバー世代の中で割合が大きい項目として順に『健康』8 割弱、『人間関係』6 割強、『趣味』5 割弱が挙げられる。

図-4 は世代別のいきいきと感ずない項目の割合を示し

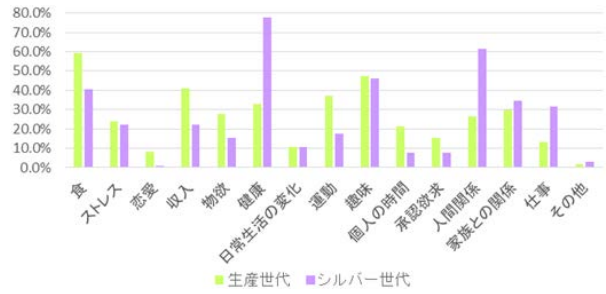


図-3 世代別いきいきと感ずるとき

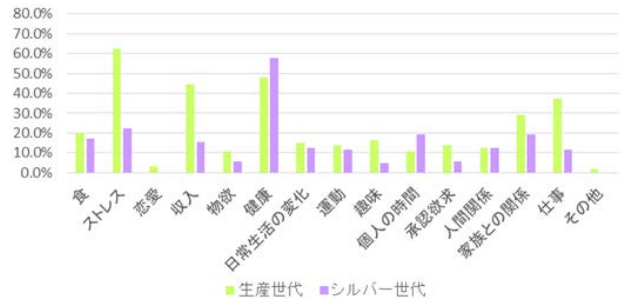


図-4 世代別いきいきと感ずらないとき

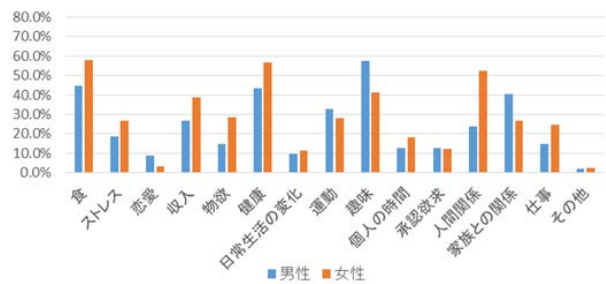


図-5 男女別いきいきと感ずるとき

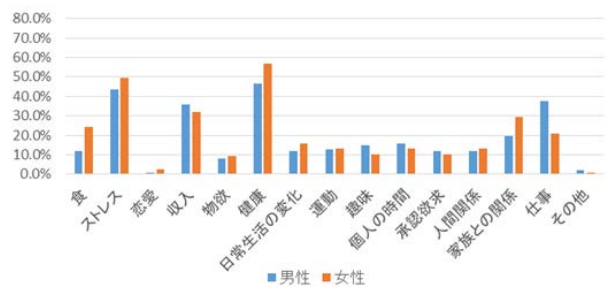


図-6 男女別いきいきと感ずらないとき

ている。生産世代の中で割合が大きい項目として順に『ストレス』6 割強、『健康』5 割弱、『収入』4 割強、シルバー世代の中で割合が大きい項目として『健康』6 割弱が挙げられる。

図-5 は男女のいきいきと感ずる項目の割合を示している。男性の中で割合が最も大きい項目として順に『趣味』6 割弱、『食』4 割強、『健康』4 割強、女性の中

で割合が大きい項目として順に『食』6割弱、『健康』6割弱、『人間関係』5割強が挙げられる。

図-6 は男女のいきいきと感じない項目の割合を示している。男性の中で割合が大きい項目として順に『趣味』6割弱、『食』4割強、『健康』4割強、女性の中で割合が大きい項目として順に『食』6割弱、『健康』6割弱、『人間関係』5割強が挙げられる。

4. 考察

図-7は小谷みどりの幸福に関する意識調査「どんな人が幸せなのか-幸福に対する価値観との関連から-」（30歳以上 89歳以下の全国の男女 800人）より引用した幸福度判断の上位3項目について性別、年齢層別の割合を示した表をである。上記論文によると「どの程度幸せかを判断するにあたって、重視した項目を3つまで選択してもらったところ『健康』7割弱、『経済的ゆとり』6割強、『家族関係』6割弱の回答が突出して多かった。これは前出した「平成22年度国民選好度調査」と同じ結果である。」と結論づけられている。前出した「平成22年度国民選好度調査」とは、内閣府が平成22年度に行った国民専攻度調査を示している。

表-3 上位3項目の割合比較（全体、男女、世代別）

	全体	男女別		世代別			
		男性	女性	生産世代		シルバー世代	
				30~44歳	45~59歳	60~74歳	75~89歳
健康	65.5%	64.0%	67.4%	48.4%	59.6%	74.8%	80.6%
収入	50.8%	43.6%	56.7%	32.9%			77.9%
趣味	60.5%	62.0%	59.2%	61.6%	67.0%	60.0%	52.9%
人間関係	33.6%	26.7%	38.9%	41.1%			22.1%
家族	59.0%	52.6%	66.0%	62.1%	55.9%	61.9%	55.9%
	31.7%	40.6%	26.8%	29.7%			34.6%

表-3は小谷による幸福度判断の上位3項目（上）と本研究におけるいきいきと感じる場合の『健康』、『収入』、『家族』の全体・男女・世代別の割合（下）を示している。上記論文の『健康』、『経済的ゆとり』、『家族関係』の割合と比較すると、本研究で得られた結果は上記論文で得られた結果より全体的に低い割合を示していることがわかる。このことから、幸福度の判断として全国平均と西川町では重視している項目が異なっていることが言える。特に『男性-収入』は-35.3%、『女性-家族』は-39.2%、『シルバー世代-収入』は-34.6%と突出して低い割合となっており、全国平均と比較すると、男性・シルバー世代は収入を、女性は家族との関係を幸福度の判断として重視していないということが言える。

表-4は本研究におけるいきいきと感じる場合の全体・

表-4 いきいきと感じるときの上位4位
（全体、男女、世代別）

いきいき	全体	男女別		世代別	
		男性	女性	生産世代	シルバー世代
1	食	趣味	食	食	健康
	51.9%	57.4%	58.0%	59.5%	77.9%
2	健康	食	健康	趣味	人間関係
	50.8%	44.6%	56.7%	47.5%	61.5%
3	趣味	健康	人間関係	収入	趣味
	46.9%	43.6%	52.2%	41.1%	46.2%
4	人間関係	家族	趣味	運動	食
	40.5%	40.6%	41.4%	37.3%	40.4%

表-5 全体のいきいきと感じるとき上位4項目における男女・世代別の割合

いきいき	全体	男女別		世代別	
		男性	女性	生産世代	シルバー世代
食	51.9%	44.6%	58.0%	59.5%	40.4%
健康	50.8%	43.6%	56.7%	32.9%	77.9%
趣味	46.9%	57.4%	41.4%	47.5%	46.2%
人間関係	40.5%	23.8%	52.2%	26.6%	61.5%

男女・世代別の上位4項目とその割合を示している。共通する項目として『食』、『趣味』が挙げられる。表-5は本研究におけるいきいきと感じる場合の全体の上位4項目に着目した場合の男女、世代別割合を示している。『生産世代-健康』、『男性-人間関係』、『生産世代-人間関係』を除いたすべての割合が4割を超えていることから、『食』、『健康』、『趣味』、『人間関係』は男女・世代別においても幸福度の判断として重視する項目であることが考えられる。

各行動項目の関心度を示すグラフを図-7のように作成し、①、②、③、④の領域に属する関心度評価を行った。主な行動項目として、いきいきと感じるとき上位4項目『食』、『健康』、『趣味』、『人間関係』における関心度の男女間比較を図-8、世代間比較を図-9に示す。図-9のグラフ内部の数字は、年代を表しており、それぞれ25~39歳、40~49歳、50~64歳、66歳~79歳、80歳以上を示している。これらの図より以下のことが言える。

(1) 食について

男性は食に関心が低く、女性は美味しいものを食べた・お腹が満たされたときに関心が高い。

生産世代は美味しいものを食べた・お腹が満たされたときに関心が高く、シルバー世代は食に関心が低い。

(2) 健康について

男性は健康状態に関心が低く、女性は健康状態に関心が高い。

生産世代は健康状態に関心がなく、シルバー世代は健康状態に関心が高くなる。

(3) 趣味について

男性は趣味をしているときに関心が高く、女性は趣味

に関心が低い。

25～39 歳、40～49 歳は趣味への関心が低く、50～64 歳、65～79 歳は趣味をしているときに関心が高くなり、80 歳以上は再び趣味への関心が低くなる。

(4) 人間関係について

男性は人間関係に関心がなく、女性は人間関係が良好なときに関心が高くなる。

生産世代は人間関係に関心がなく、シルバー世代は人間関係が良好なときに関心が高くなる。

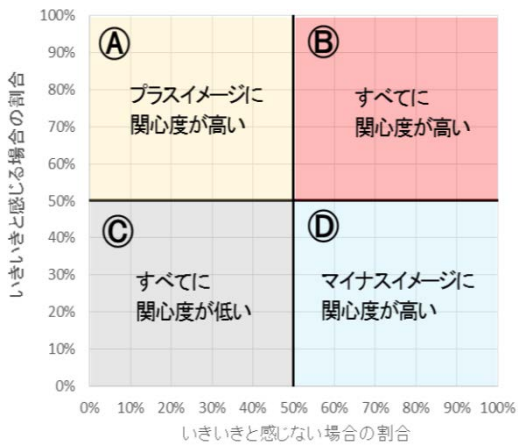


図-7 各行動項目の関心度

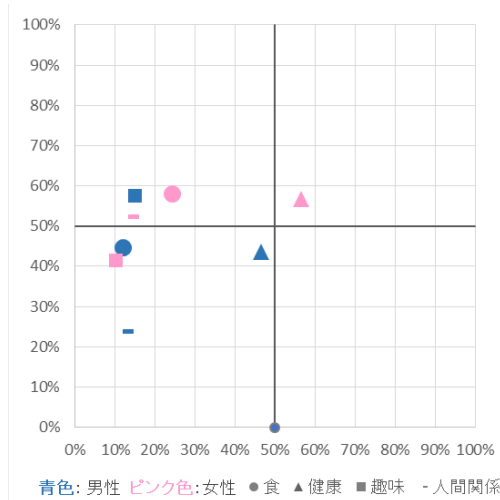


図-8 いきいきと感じるとき上位 4 項目における関心度の男女間比較



図-9 いきいきと感じるとき上位 4 項目における関心度の世代間比較

5. 結論

中山間地域である西川町と全国平均では幸福度の判断として重視している項目が異なり、特に男性・シルバー世代は収入よりも食への満足感や趣味の時間を、女性は家族との関係よりも食への満足感や人間関係の良好さを重視していることがわかった。また西川町が幸福度の判断として重視する行動項目は、『食』、『健康』、『趣味』、『人間関係』であり、町全体としては美味しいものを食べたときやお腹が満たされたときと趣味をしているときに幸福に大きく関与すると考えられ、男性・女性・シルバー世代は健康である感じる時が、また女性、シルバー世代は人間関係の良好さが幸福に大きく関与すると考えられる。今後は、より詳細な全国平均や中山間地域と反対の環境下である都市部との比較を行い、地域、住居環境の違いにおける幸福要因についてより明らかにすることで、その地域の個性を活かした新たな住居プランを提案することができると考える。

謝辞：本研究にあたり、西川町里山社会・文化研究所、西川町役場の皆さまにご協力いただき、感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 山形県西川町：平成 25 年度第 6 次西川町総合計画
- 2) 小谷みどり：どんな人が幸せなのか-幸福に対する価値観との関連から-
- 3) 内閣府：平成 22 年度国民選好度調査